

テクノ未来塾 京都フォーラム 2019年6月22日(土)
開沼 博氏 立命館大学衣笠総合研究機構 准教授
科学技術の社会受容性向上のために、技術者が行うべきことを考える
—新技術の「脱魔術化」を事例に—



講演パワーポイント5枚目

脱魔術化

- 近代化とは脱魔術化の過程: マックス・ウェーバー
 - かつては魔術(宗教、迷信)が世界を支配していた
 - 魔術は科学によって置き換えられていった
 - ただ、科学の高度化の中で社会が科学に満ちているように見えるいま..
- 再魔術化
 - リスク社会論: 宗教・魔術的なものの再興
 - 貧病争から不死・幸福・神性: 神になろうとする人類
 - ナツジ: 無意識や非合理を何者かが支配する(ように見える)社会
- 科学技術のメリットとデメリットは誰のためで誰のせいかな



「福島を知るための 15 問」
「答えを考えて記入してみてください」



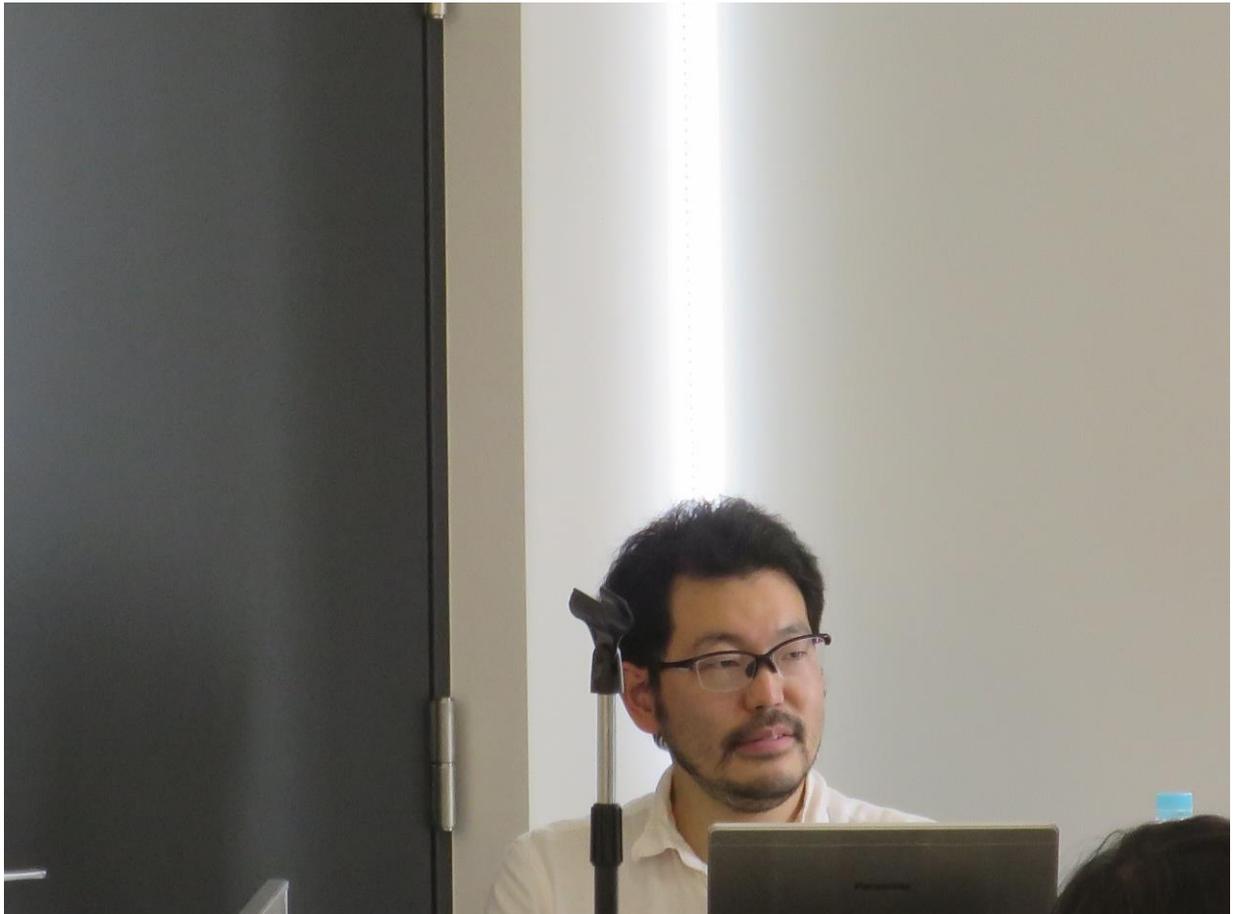
「グループ討議・討議内容の発表」



「全5グループの発表、それぞれに考えをめぐらせ深めて・・・」

開沼先生：「ハイコンテクスト文化のローコンテクスト化を・・・」

講演は、社会科学分野のキーワード（１）（２）（３）に始まり、あっという間の２時間。



阿部理事長：「技術者が考え続けるべき答えのない問い、大事なことは・・・」

（編集・文責：事務局）